

豎山勲プロフィール

現住所 〒 893-0031 鹿児島県鹿屋川東町7078-8
氏名 豎山 勲 (タテヤマ イサオ)
電話 0994・42・6609 携帯090・2718・0329
生年月日 1948年(S23)11月28日 70歳
豎山家の第5子として生まれる。

- 1955年(S30)4月 鹿児島県大口市立大口東小学校入学。
1960年(S35)5月17日 母、死亡。享年53歳(勲、11歳)
1961年(S36)4月 鹿児島県大口市立大口中学校入学。
1962年(S37)9月5日 国立らい療養所星塚敬愛園に強制入所。
鹿屋市立大始良中学校星塚分校へ転校。
(ハンセン病発病・強制隔離の為、勲13歳)
1964年(S39)4月 岡山県邑久郡邑久町国立療養所長島愛生園に転園。
岡山県立邑久高等学校附属新良田教室入学。
(ハンセン病患者の為の高等学校)
1967年(S42) 病気の為同校中退。
出身園である敬愛園に転入所。
その後、敬愛園自治会活動を続ける。
1969年(S44)4月24日 父、死亡。享年66歳。
1980年(S55)11月8日 長男、死亡。享年52歳。
1996年(H8)3月31日 「らい予防法」廃止。
1996年(H8)4月1日 法廃止に関する諸問題に対し、個人として活動を始める。
1996年(H8)5月 MBC TV「どーんと鹿児島」星塚人間回復の声〜らい予
防法廃止が問いかけるものなどなど〜に出演。
その後、TV(筑紫哲也)ニュース23を始め、TV・新聞・ラジオ・雑誌等で取り上げ
られる。
1998年(H10)7月31日 熊本地裁に「らい予防法」違憲国賠訴訟を提起。
原告13名(第一次)原告団を結成し西日本原告団事務局長を努める。
2001年(H13)1月12日 第1次〜第4次提訴までの127名結審。
2001年(H13)4月14日 全国原告団協議会設立。副会長。
2001年(H13)5月11日 判決。原告完全勝訴。
2001年(H13)5月23日 政府控訴断念、このことにより熊本地裁判決が確定する。
現在、ハンセン病問題の全面解決へ向けて国との交渉の任にあたる。

国の機関の「再発防止検討会」の委員としての任にあたる。

- 2004年（H16）4月25日 衆議院議員補欠選挙鹿児島県第5区民主党公認候補として
民主党代表菅直人氏・鳩山由紀夫氏より要請を受け
立候補 落選 16、029票
- 5月26日 星塚敬愛園退所。社会復帰。
- 9月26日 上清水あきこと結婚。
- 2005年（H17）9月21日 妻あきこの第3子「恵」を養女として迎える。
- 10月14日 養女 恵 胃がんのため死去。（享年25歳）

現在、ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会事務局長
ハンセン病問題対策協議会・全国統一交渉団。
ハンセン病問題に関する検証会議の提言に基づく再発防止検討会委員
全国退所者連絡会（全退連）相談役
ハンセン病家族訴訟原告団 顧問
脳脊髄液減少症全国ネットワーク架け橋 最高顧問
らい予防法違憲国賠訴訟西日本原告団事務局長。
鹿児島県ハンセン病療養所退所者の会代表
NPO法人「共に歩む会」理事
前ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会副会長
元国立療養所星塚敬愛園自治会副会長。など

1998年（H10）より講演活動を始め。現在までの講演回数800回以上。

講演内容

「夢見た故郷の空」

- 1、ハンセン病療養所の実態について。
- 2、ハンセン病とはどのような病気なのか。
- 3、「らい予防法」とはどのような法律だったのか。
- 4、「らい予防法」下における被害の実態。
- 5、「らい予防法」違憲国賠訴訟に寄せる私達の思い。
- 6、5・11熊本地裁での完全勝訴判決と
5・23政府控訴断念を受けての私達の今後の戦いについて。

「命みつめて」

- 1、療養所でお亡くなりになられた物故者の命を通して、「人の命」の重さを見つめる。
- 2、死してなお故郷へ帰れない納骨堂に眠る遺骨を通して、偏見と差別の実態を学ぶ。

3、優生保護法下で奪われていった「小さな命」を通して生命の尊厳を考える。

私の隔離人生の中で敬愛園でお亡くなりになった約800名の方の命を検証することによって、人権の尊さを学ぶことが出来たらと思っています。

大人、子供でもわかるように内容をやさしくして居ります。

尚、専門的にお聞きになりたい方は、より詳しくお話も致します。

ハンセン病問題はまだ終わっていない！

ハンセン病問題はまだ終わっていません。本訴訟を提起する以前の弁護士予備会議から今日まで、総ての行動・交渉の任に当って来た者として、私達患者・元患者の人間回復、人権回復はまだまだ緒に付いたばかりと言わざるを得ません。私達患者・元患者が「人」として生きれる、偏見差別のない社会を目指し、その闘いを続けて参ります。

※2001年の政府控訴断念以来今日まで毎月1～3回車で上京し、国とのハンセン病問題の全面解決のための交渉を行っています。一日として自分の時間はありません。らい予防法の被害者の平均年齢が86歳の現状を見たとき、一刻も早い全面解決をと老体に鞭打ちながらの毎日です。

豎山 勲の人生が歌になりました。

北九州在住の人権バンド願児我楽夢（がんにがらめ）の皆さんが、「時の響きて」と言う歌を歌っています。この歌のモデルが私です。CDも出ています。

豎山 勲の人生が絵本になりました。

鳥取在住の福安和子さん（元用瀬保育園園長）が「時の響きて」と言う絵本を出版されました。この本のモデルが私です。毎日新聞の全国紙を始め南日本新聞等々に取り上げられ、毎日数件の購買の申し込みが著者に来ているそうです。是非ご一読ください。

豎山 勲の人生がTVで取り上げられました。

鹿児島県のMBC TVが「人間として」～ハンセン病訴訟原告たちの闘い～ドキュメンタリー番組を制作しました。この番組は2001年文化庁主催・芸術祭参加作品でしたが、優秀賞を受賞しました。更に日本ジャーナリスト会議賞（JCJ賞）受賞作品、そして日本民間放送連盟賞テレビ報道部門・全国最優秀賞受賞作品にも選ばれました。

TBSテレビ・筑紫哲也ニュース23で全国放送されました。

鹿児島県のMBC TVが「再会」～電撃黒潮隊～ドキュメンタリー番組で53作品の中から大賞を受賞し、TBS TV局より全国放送されました。この他にもMBC TVによるドキュメンタリー番組「人間回復の叫び」「らい予防廃止は何だったのか」「星塚・人間回復の声～らい予防法廃止が問いかけるもの」等数多くの作品が放送されました。

鹿児島県のMBC TVが「ハンセン病問題は終わっていない」シンポジウムを行

ないました。その模様がテレビ放映されました。更に岩波書店より岩波ブックレット567として本になりました。この他にも数多くの出版物に取り上げられておりますが、その数を確認しておりません。

記録映画「見えない壁を越えて」声なき者たちの証言に出演。

内藤剛志の中学生トークライブに出演。岩波映像等

TBSテレビ筑紫哲哉の二ニュース23に4回生出演。他MBCテレビ・KTSテレビ・KKBテレビ等に数回の生出演。メディアを通しての啓発活動。

2009年8月3日東京の文化放送で「大竹まことゴールデンラジオ」の「ゴールデンヒストリー」というコーナーでそれぞれの旅と題して豎山の「旅」について放送されました。お聞きになりたい方は放送をCDに収めたものが文化放送から送られてきています。ぜひお聞きください。2011年5月25日MBC TV「どーんと鹿児島」「故郷いまだ遠く～星塚敬愛園は今」他。

ハンセン病の後遺症で顔が崩れました。手が曲がりました。発汗機能障害があります。知覚麻痺があります。本当ならテレビに出る事も、新聞に取り上げられる事も、そして人前に顔をさらす事もしたくありません。しかしらい予防法の違憲性を問う裁判を起こしたものとして、らい予防法によって受けた被害の実態を語る責務があります。今後とも頑張ります。ご支援を。

この世の中に一つとして

いらぬ命はない

それぞれの命の重みを感じられる

世の中を・・・

※このプロフィールはどのようにお使いになられても結構です。